

授業科目	在宅看護論	講師名	看護専任教員 他	
開講時期	2年次前期～3年次後期	単位数	6単位	195時間

**【目的】**

地域で生活しながら療養する人々及び障害を持ちながら生活する人々とその家族を理解し、在宅における看護活動に必要な基礎的知識・技術・態度を養う。

**【構成】**

在宅看護論	6単位	195時間	
在宅看護概論	1単位	15時間	
在宅看護方法論Ⅰ	1単位	30時間	
在宅看護方法論Ⅱ	1単位	30時間	
在宅看護方法論Ⅲ	1単位	30時間	
在宅看護実習	2単位	90時間	(シラバスの詳細は臨地実習参照)
在宅看護実習Ⅰ	1単位	45時間	
在宅看護実習Ⅱ	1単位	45時間	

授業科目	在宅看護概論	講師名	石黒 千尋		所属	看護専門学校
開講時期	2年次 前期	単位数	1単位	時間数	15時間	必修科目
<p><b>【学習目的】</b></p> <p>在宅看護の概念を理解し、在宅看護の位置づけと役割の重要性を学ぶ。</p> <p><b>【学習目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護を取り巻く社会背景を基に、在宅看護の必要性及びその目的・目標を理解できる。</li> <li>2. 地域看護の歴史や在宅看護に関連する諸制度の変遷を理解することができる。</li> <li>3. 在宅療養が必要となる疾病や障害、家族の状況を踏まえ、在宅看護の多様性を理解できる。</li> <li>4. 在宅看護の特徴をもとに、在宅看護における看護師の役割を理解できる。</li> <li>5. 訪問看護サービスの種類や法的根拠を踏まえ、訪問看護の主な活動を理解できる。 また、訪問看護師の責任について認識することができる。</li> <li>6. 地域で療養する人を支える社会資源の種類や関連職種を知り、連携の必要性と連携方法について理解できる。</li> <li>7. 在宅看護の現状や社会の動向を踏まえ、在宅看護（訪問看護）が抱える問題と課題について考えることができる。</li> </ol> <p><b>【学習内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健医療福祉活動における在宅看護の位置づけ・地域看護・公衆衛生看護活動について</li> <li>2. 社会の変化と在宅看護の変遷について</li> <li>3. 在宅看護の特性と役割について</li> <li>4. 社会資源の在宅療養における活用方法・関係職種について</li> <li>5. 地域の保健・医療・福祉制度の理解</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <p>新体系 看護学全書 在宅看護論 （メヂカルフレンド社）</p> <p><b>【評価方法】</b></p> <p>学力テスト （筆記試験）</p>						
備考						

授業科目	在宅看護方法論 I	講師名	石黒千尋・病院看護師		所属	看護専門学校・杏林大学病院
開講時期	2 年次 前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間	必修科目
<p><b>【学習目的】</b></p> <p>地域で生活しながら療養する人々及び障害を持ちながら生活する人々と、その家族を理解し在宅援助方法の知識と理論を学ぶ</p> <p><b>【学習目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅で療養する人々及び障害を持ちながら生活する人々を理解する</li> <li>2. 在宅看護の対象となる人々の生活を支える訪問看護について理解する</li> <li>3. 対象となる家族の形態・機能の特徴を知り、家族看護の必要性を理解する</li> </ol> <p><b>【学習内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外来看護と在宅看護の特性・対象の理解 <ul style="list-style-type: none"> <li>・外来看護の位置づけ、役割</li> <li>・継続看護 : 退院から在宅看護にむけて</li> </ul> </li> <li>2. 在宅看護の対象となる個人の特性</li> <li>3. 療養者が有している権利と看護の責務</li> <li>4. 家族の機能と家族看護</li> <li>5. 家族看護の諸理論</li> <li>6. 要介護者を抱える家族理解</li> <li>7. 家族看護における看護職の役割と援助（終末期看護を含む）</li> <li>8. 家族看護過程</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <p>新体系 看護学全書 在宅看護論 (メヂカルフレンド社)</p> <p><b>【評価方法】</b></p> <p>学力テスト (筆記試験)</p>						
備考						

<b>授業科目</b>	在宅看護方法論Ⅱ	<b>講師名</b>	石黒千尋・地域医師		<b>所属</b>	看護専門学校 三鷹市医師会
<b>開講時期</b>	2年次 後期	<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	30時間	<b>必修科目</b>
<p><b>【学習目的】</b> 在宅看護の現状と実際を知り、在宅看護活動に必要な知識・技術・態度を学び理解できる。</p> <p><b>【学習目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護の特性が理解できる。</li> <li>2. 在宅看護における日常生活援助の技術が理解できる。</li> <li>3. 在宅看護における医療処置援助の技術が理解できる。</li> <li>4. 地域医療の実際が理解できる。</li> </ol> <p><b>【学習内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護の特性の理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 求められる能力 <ol style="list-style-type: none"> <li>① ケアマネジメント能力      ② インフォームドコンセント（看護師の役割）</li> <li>③ 対応とマナー                      ④ 面接技術</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>2. 在宅看護における日常生活援助 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 清潔援助、移動・移送、コミュニケーション、排泄</li> <li>・ 演習</li> </ul> </li> <li>3. 在宅における医療処置援助の技術の理解</li> <li>4. 地域医療・地域診療の実際</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <p>新体系 看護学全書 在宅看護論 （メヂカルフレンド社）</p> <p><b>【評価方法】</b> 学力テスト （筆記試験）</p>						
<b>備考</b>						

授業科目	在宅看護方法論Ⅲ	講師名	石黒千尋・訪問看護師 MSW・ケアマネジャー	所属	看護専門学校 訪問看護 ステーション他
開講時期	2年次 後期	単位数	1単位	時間数	30時間
<p><b>【学習目的】</b>  保健・医療・福祉活動の中での在宅看護の役割を理解し、関係職種との連携・チームケアの重要性を学ぶ</p> <p><b>【学習目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. チームケアの連携の重要性を理解できる。</li> <li>6. 在宅療養の安全な環境と危険に対する予防対策が理解できる</li> <li>7. 関係職種との連携の実際について学び、必要性が理解できる</li> <li>8. 在宅看護の特性を踏まえ、事例を通して看護過程が展開できる</li> </ol> <p><b>【学習内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. チームケアについて  職種間の連携の必要性・方法（保健センター・保健所・地域包括支援センター）</li> <li>2. 在宅療養を安全に過ごすための環境  ①転倒防止・窒息防止 ②感染症（MRSA・疥癬・結核・AIDS など）  ③感染予防対策</li> <li>3. 在宅における医療過誤・介護過誤</li> <li>4. 保健医療福祉活動の実際  ・訪問看護ステーション看護師  ・MSW  ・ケアマネジャー</li> <li>9. 在宅看護過程</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <p>新体系 看護学全書 在宅看護論 （メヂカルフレンド社）</p> <p><b>【評価方法】</b></p> <p>学力テスト（筆記試験）  レポート提出  出席点</p>					
備考					

授業科目	在宅看護実習 I	実習担当者	石黒千尋・実習施設指導者		所属	看護専門学校・各実習施設
開講時期	3年次	単位数	1単位	時間数	45時間	必修科目

**【意義】**

在宅看護実習の意義は、人々の生活そのものに触れ、家族や近隣関係、そして社会の中で看護問題を捉えていくことができるということである。

在宅看護の対象は、療養者本人と介護者を含む家族であるため、それぞれの価値観に則して生活をし、それまでの生きざまが健康観を創っている事を踏まえ、療養者や家族を捉える必要がある。また在宅療養者は多職種（他職種）が関わっており、相互の連携のため情報共有の必要性がある。実習を通して在宅支援活動の実際を体験し、在宅における看護の役割と機能を学ぶ。

**【目標】**

訪問看護を通して、在宅療養の健康障害と生活状況、介護者の状況を知り、看護の役割と方法を理解し、在宅療養者への情報提供と活用のための援助を知ることができる。

**【学習内容】**

1. 訪問看護ステーションで実習を行う。
2. 各実習場所の訪問計画や事業内容に基づき実習を行う。
3. 学内学習

**【実習場所】**

訪問看護ステーション …… 訪問看護実習

**【使用テキスト】**

新体系 看護学全書 在宅看護論 (メヂカルフレンド社)

**【評価方法】**

1. 「評価規定」に基づいて行なう。
2. 規定時間の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。
3. 在宅看護実習 I の実習状況を基に成績表の内容で評価する。

**備考 ※詳細は「臨地実習要項」参照とする**

「在宅看護実習 I」の受講には、実習開始前に、以下の科目を履修していることが必要である。

基礎看護学実習 I、基礎看護学実習 II

授業科目	在宅看護実習Ⅱ	実習担当者	石黒千尋・実習施設指導者	所属	看護専門学校・各実習施設
開講時期	3年次	単位数	1単位	時間数	45時間
					必修科目

**【意義】**

現在、在院日数が短縮され、在宅療養への移行による地域医療構想が進められている。そのような動きの中で在宅移行への支援が病棟看護師に求められている。在宅移行支援のためには社会資源の知識が必要である。それぞれの実習施設における保健医療福祉活動の実験を体験し、多職種や他施設との相互連携や協働の必要性を理解できることが重要である。そして地域包括支援と地域看護の役割と機能を学び、看護の継続性を考える機会とする。

**【目標】**

地域における保健医療福祉活動の実験を体験することにより、多職種（他職種）や多施設との連携による様々な地域支援活動を理解し、地域看護の役割と機能を学ぶことができる。

**【学習内容】**

1. 市保健センターまたは自治体関連施設（通所サービス施設・地域包括支援センター）で実習を行う。
2. 実習施設の事業計画やスケジュールにそって事業に参加し、見学実習を行う。
3. 学内学習

**【実習場所】**

市の保健（健康）センター  
または 自治体関連施設（通所サービス施設・地域包括支援センター）

**【使用テキスト】**

新体系 看護学全書 在宅看護論 （メヂカルフレンド社）

**【評価方法】**

1. 「評価規定」に基づいて行なう。
2. 規定時間の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。
3. 在宅看護実習Ⅱの実習状況を基に成績表の内容で評価する。

**備考** ※ 詳細は「臨地実習要項」参照とする

「在宅看護実習Ⅱ」の受講には、実習開始前に、以下の科目を履修していることが必要である。

基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ